

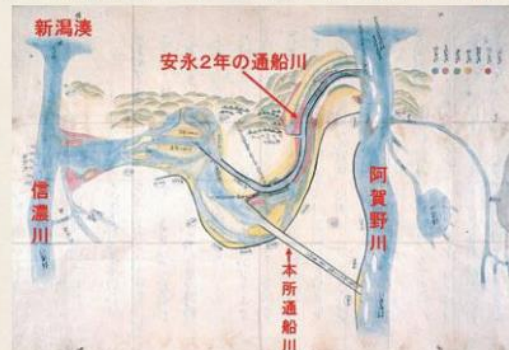
通船川の歴史

阿賀野川は江戸時代半ばまで、現在の通船川とほぼ同じ流路を
通って信濃川河口にある新潟湊みなとに流れ込んでいました。

享保15(1730)年、紫雲寺潟(塩津潟)などの新田開発を目的
とした放水路「松ヶ崎堀割」が阿賀野川下流に完成しました。これは元々
川の増水分だけを海へ流すものでしたが、翌年の雪解け水で堀割が決壊
したことで本流が変わり、現在の阿賀野川の流路が形成されました。これ
以降、新潟湊の水量を増やすための工事が実施されましたが失敗が続き、
元の阿賀野川の流路は狭くなって通船に支障が出るようになりました。

宝暦9(1759)年、本所村(東区)から海老ヶ瀬新田(同)にかけて本所通
船川が新たに開削されましたが、すぐに砂で埋まってしまいました。そ
のため、安永2(1773)年に元の阿賀野川の流路を生かした川の掘り替え
工事が行われました。これが現在の通船川です。

信濃川と阿賀野川を結ぶ通船川には
船が行き交い、明治期には蒸気船が運航
しました。その後周辺が工場地帯として
発展すると、通船川は原材料や製品の輸
送路としての役割を担いました。



安永2(1773)年 通船路出来形絵図
(新潟市歴史博物館所蔵)